

わが家の避難地図をつくりましょう

▶ 避難場所までの経路はお住まいの地域によって異なります

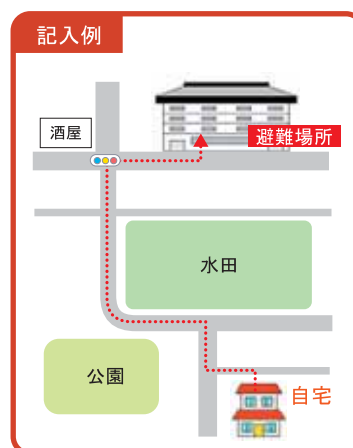
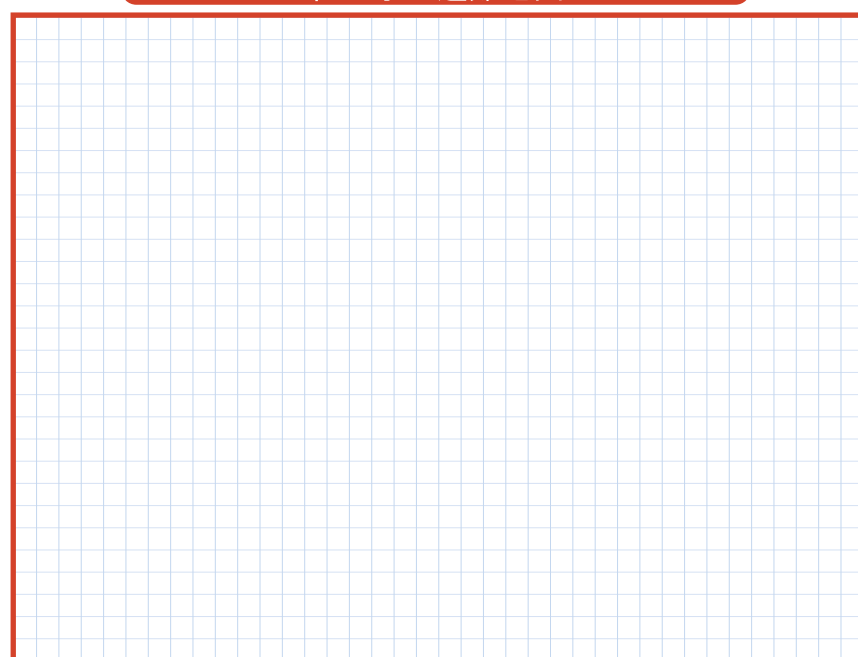
地震ハザードマップを使って、以下の点に注意しながら自宅から避難場所までの避難経路を記入して避難地図を作ってみましょう。

- ①自宅の位置を確認しましょう。
- ②「揺れやすさマップ」を見て自宅付近の「揺れやすさ」を確認しましょう。
- ③「建物倒壊危険度マップ」を見て自宅付近の「建物倒壊危険度」を確認しましょう。
- ④避難場所を確認して、自宅との位置関係を調べましょう。

避難経路を考える上での注意事項

- 「建物倒壊危険度」が高い区域では、古い建物にはさまれた狭い道路は地震の際に通行できないことも想定されます。そのような区域がある場合は、危険情報(古い建物、狭い道路など)も記入し、それらを避けてなるべく広い避難経路を選びます。
- その他、避難時に危険が予想される箇所(危険物施設、倒壊のおそれがあるブロック塀、橋など)も避けるようにしましょう。
- 自宅付近だけでなく、「よく行くところ、よく通るところ」の「揺れやすさ」や「建物倒壊危険度」を確認し、そこからの避難場所、避難経路も調べておきましょう。

わが家の避難地図



※37ページに拡大版があります。

- ⑤家族全員で確認しましょう。
 - 避難地図に記入した経路を実際に歩いて、周辺の状況や所要時間を確認しましょう。
 - 実際の災害時は、ふだんと状況も異なり、避難に時間がかかることを前提に行動しましょう。

水害編

洪水ハザードマップとは

洪水ハザードマップとは、洪水・はん濫に関する情報と避難方法などを町民の皆様提供することにより、日頃からの防災意識を高めるとともに、いざという時に安全かつスムーズな避難行動につなげ、被害を最小限にすることを目的とした地図です。大雨によって河川がはん濫した場合に浸水する範囲や深さを予想した浸水情報や、はん濫時の避難場所、水害に対する知識や心得など、浸水が想定される区域からの町民の安全な避難に必要な各種の情報をわかりやすく表示しています。

▶ 洪水の想定は？

洪水の想定は、河川の大きさや整備の状況により異なりますが、大雨で堤防が壊れたり、水があふれたりする洪水を想定しています。

- 利根川・江戸川
利根川流域、八斗島上流域の3日間総雨量318mm(200年に1回)
- 荒川
荒川流域の3日間総雨量548mm(200年に1回)
- 中川・綾瀬川・元荒川
昭和33年9月型洪水(狩野川台風)48時間総雨量355mm(100年に1回)

▶ 注意事項

マップに示した浸水の予想される深さや範囲は、計算結果によるものであり、雨の降り方によっては浸水の想定されていない地域においても浸水したり、想定される深さが実際の深さと異なる場合があります。

▶ 対象となる河川は？

国または県が、浸水のおそれのある区域を公表した利根川、江戸川、荒川、中川、綾瀬川、元荒川を対象としています。

